

テーマ 男女の平等と婦人の社会参加をすすめる

保存資料
婦人課

(統計にみる婦人の概況)

はじめに

婦人の地位向上のための特別活動として設けられた婦人週間は、本年第29回を迎え、上記テーマのもとに「社会慣習をみなおす」を運動の重点として実施します。

この資料は、本年の目標を広く知っていただくために作成しました。御活用いただければ幸いです。

1977年1月

労働省婦人少年局

婦人の概況

表1 女子の人口構成

- 女子の数は、男子より170万人多い5,682万人(「国勢調査」50年)で、その23%が14才までの子ども、9%が65才以上の老人である。65才以上では女子が男子より118万人多い。(表1)

- 15才以上の女子の6割強が有配偶者であるが、25～64才層の婦人では、その割合が8割強となっている。(表1)

- 現在、婦人は平均して24.7才で結婚し、20代の後半に2児を生み終えている。(表1)

	女		男	
	実数(万人)	構成比(%)	実数(万人)	構成比(%)
総人口	5682	100.0	5512	100.0
0～14才	1328	23.4	1391	25.2
15～64才	3850	67.8	3734	67.7
65才以上	502	8.8	384	7.0
15才以上人口	4352	76.6	4115	74.7
未婚	932	21.4	1199	29.1
有配偶	2776	63.8	2771	67.3
死・離別	643	14.8	145	3.6
うち25～64才	3011	53.0	2873	52.1
未婚	233	7.7	392	13.7
有配偶	2463	81.8	2416	84.1
死・離別	315	10.5	64	2.2
平均初婚年令	24.7才		27.0才	
平均出産年令第1子	25.7才		—	
第2子	28.0才		—	
平均寿命(0才余命)	76.9才		71.7才	

- 15才以上の女子の45%が働いている。

婦人の就業は、配偶関係、年齢等によって異なるが、25～39才層の育児期にあると思われる年齢層においても、約半数の婦人が働いている。
(表2)

表2 女子の就業状態

実数は単位一万人

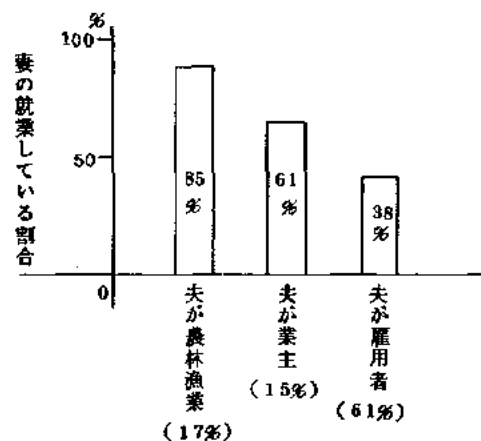
	計		15～24才		25～39才		40～64才		65才以上	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
15才以上人口計	4352	100.0	839	100.0	1422	100.0	1589	100.0	502	100.0
労働力人口	2002	46.0	388	46.2	655	46.1	881	55.4	78	15.5
就業者	1966	45.2	376	44.8	642	45.1	870	54.8	77	15.3
主に仕事	1278	29.4	336	40.0	395	27.8	511	32.2	36	7.2
家事のため仕事	662	15.2	25	3.0	242	17.0	354	22.3	40	8.0
雇用者	1153	26.5	345	41.1	387	27.2	405	25.5	16	3.2
非労働力人口	2351	54.0	451	53.8	767	53.9	709	44.6	424	84.5

「国勢調査」(昭和50年)

- また、有配偶婦人の就業は夫の職業に影響され、現在、夫の職業が農林漁業である世帯の妻は85%、非農林業の業主では61%、非農林漁業の雇用者では38%の妻が就業している。

(図1)

図1 夫の職業別 妻の就業している割合



()は夫の職業別世帯の割合
「国勢調査」(昭和45年)

II 男女平等に関する意識

- 婦人が職業を持つことは、婦人の地位を高めるのに役立つと考えている人は、役立たないと思う人よりはるかに多く約59%である。

女の子にも将来職業人として自立できるような教育が必要だと考える婦人が63%と多い。

(図2、3)

図2 婦人が職業をもつことは、婦人の地位を高めるか

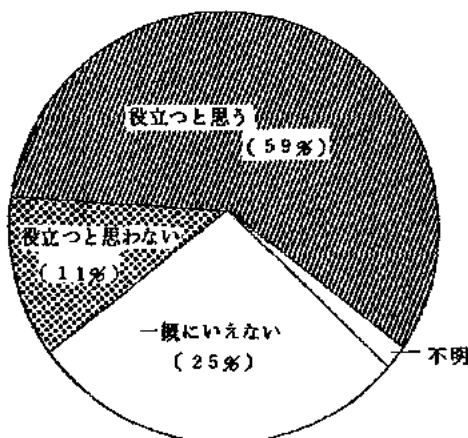


図3 女の子にも職業人としての教育が必要か

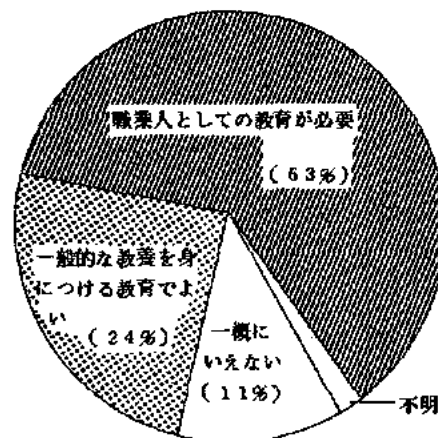
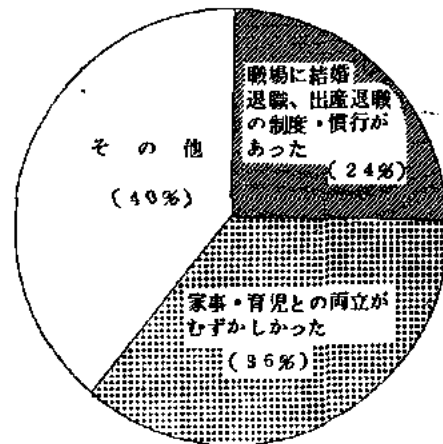


図4 職業をやめた主な理由

- 現在退職している婦人の約4分の1が、職場における結婚や出産退職制度・慣行が退職の主な理由であるとしている。

(図4)

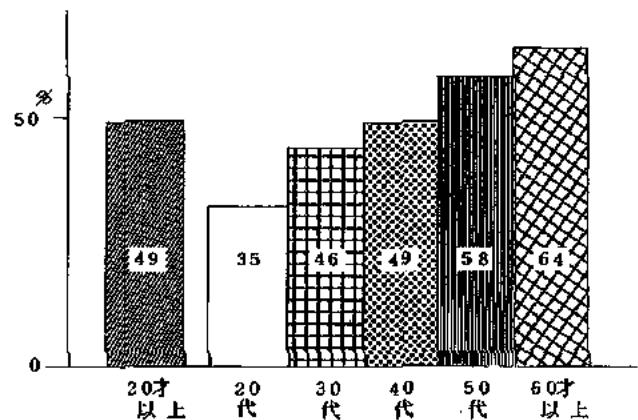


総理府広報室 「婦人に関する世論調査」(昭和51年)

図5 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する女性の割合

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する婦人は約半数(49%)であるが、この割合は、20代で35%、60才以上では64%と年齢が高くなる程多くなっている。

(図5)



総理府広報室 「婦人に関する世論調査」(昭和51年)

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感している婦人でも、その72%が、できるだけ社会と結びついた活動をする方がよいと考えている。

表3 社会活動の内容

(社会活動をしている者=100%)

- 現実に社会活動(職業をのぞく)をしている婦人は20%とそれほど多くはない。その活動の内容は、「婦人会・PTAなどの活動」が54%と過半数を占めている。

(表3)

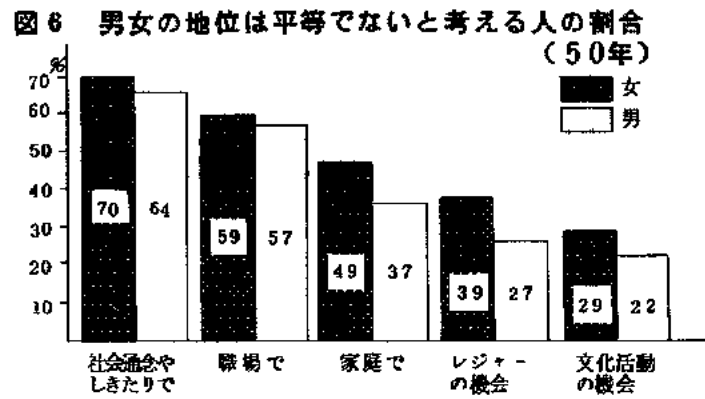
・青少年グループ 子供会の世話、婦人会・PTAなどの活動	54%
・自治会、町内会の世話	19
・宗教団体のための活動	12
・趣味の集まりの世話	12
・社会福祉施設への訪問、手助け	7
・消費者団体、生活協同組合などの活動、住民運動	5
・労働組合のための活動	4
・点訳、募金などの社会福祉施設外での奉仕活動	4
・老人家庭、母子家庭、かぎっ子などの世話	4
・政党のための活動	2
・その他	3
・不明	1

注) 多答式のため計は100%をこえる。

総理府広報室 「婦人に関する世論調査」(昭和51年)

- 社会通念やしきたりの上で、男女の地位が平等でないと思う人は男64%、女70%で男女ともに多い。この割合は「職場」、「家庭」、「レジャーの機会」、「文化活動の機会」について男女の地位が平等でないと思う人の割合よりも多い。

(図6)



総理府広報室 「男女平等に関する世論調査」(昭和50年)

- 男女の地位を平等にするための方策として、古い封建的な慣習をなくすことが必要と考える人が男36%、女37%と男女ともに一番多い。(表4)

表4 男女の地位を平等にするための方策についての考え方の割合

(%)

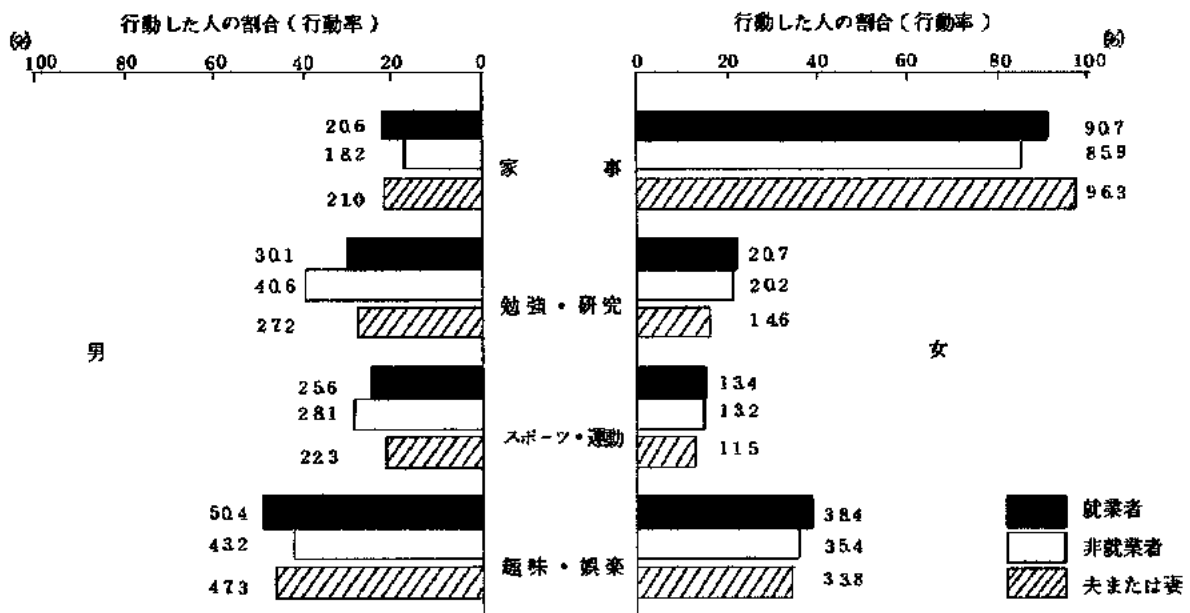
		政治や社会機構を改革すること	古い封建的な慣習をなくすこと	女性の教育程度の向上をはかること	女性がかつて政治的・社会的活動に参加すること	女性が経済力をもつこと	女性が積極的に教養を高めること	家事を合理化すること	男性の理解と協力を得ること	その他	わからない
総数	1000	185	367	171	202	198	239	110	319	34	191
男	1000	194	358	167	191	170	229	97	292	43	178
女	1000	178	373	175	209	217	246	120	338	28	201
20代	1000	220	396	167	235	217	225	109	348	20	175
30代	1000	189	379	141	233	206	238	120	324	32	169
40代	1000	187	365	125	195	191	244	115	296	31	181
50代	1000	165	347	193	169	193	257	90	332	44	207
60代以上	1000	130	314	208	130	165	230	112	283	56	267
大都市	1000	248	347	173	259	258	276	115	305	41	117
中小都市	1000	189	372	170	191	198	235	106	315	38	192
町村	1000	114	373	173	173	140	213	117	344	20	260

注) 多答式のため計は100%をこえる。

総理府広報室 「男女平等に関する世論調査」(昭和50年)

- 就業時間や、睡眠などの生理時間を除く婦人の生活時間をみると家事の占める割合が多く、男子は、趣味・娯楽、勉強・研究となっている。(図7)

図7 1週間あたり15才以上男女別、就業状態別、夫・妻別行動率



総理府 「労働力調査特別調査」(昭和51年3月)